

～下田のデキゴト～



## 10/ 1 下田中学校運動会

下田中学校で市内4中学校が統合して初めての運動会が開催されました。全校生徒419人が晴天の中、学年別リレー、大縄跳びなどを行い全力で取り組みました。保護者からの応援にも力が入り拍手が送られました。



## 10/ 3 困ったときは、おたがいさま

10月1日から赤い羽根共同募金運動が始まり、3日に街頭募金を実施しました。集まった募金は、地域の福祉活動や災害時のボランティア活動に活用されます。



## 10/15 しょういん探検隊

吉田松陰関係史跡をめぐる「しょういん探検隊」を開催しました。参加した小学生とその保護者たちは、蓮台寺の吉田松陰寓居処、柿崎の弁天島と三島神社、福浦の上陸記念碑などを見学しました。



## 10/ 3 新体力テスト

下田小学校体育館で10月3日に20～79歳の市民の方々を対象とした、新体力テストを行いました。各世代34名にご参加いただき、運動能力を数値化し、体力や運動について見つめ直すいい機会となりました。



## 10/ 5 美味しいお米で、すくすく元気に

市内の耕作放棄地や休耕地を利用し米作りを行っている「米(マイ)フレンド下田」さんから100kgの新米が市内の幼稚園・保育園・認定こども園・伊豆つくし学園に寄贈していただきました。



## 10/23 地域をつつみ込む大きな輪に

福祉の祭典「下田市ふれあい広場2022」が3年ぶりに開催されました。「ふだんのくらしのしあわせ、ひとりひとり手をたずさえて、地域をつつみ込む大きな輪に」をテーマに多くの市民で賑わいました。

## 10月の できごと

- 3日 鳥獣被害対策講習会
- 4日 下田市グローバルCITYプロジェクト
- 6～24日 市長と語る会(全7回)
- 8日 下田幼稚園・下田保育園運動会

- 15日 下田認定こども園運動会
- 16日 ゴミの減量化リサイクルワークショップ
- 26日 下田市連合体育大会
- 29日 親子和菓子作り教室

# 地域子育て支援センター通信



問合せ先 地域子育て支援センター ☎02200

## 12月の予定

- 1日(木) 赤ちゃんパパ・ママのふれあいタイム  
講師 佐々木かおり先生 13時30分～
- 2日(金) ふれあい遊び※午後閉館(清掃・消毒)
- 7日(水) めだかルーム 9時～11時30分
- 8日(木) クリスマス会 10時30分～
- 9日(金) クリスマス会 10時30分～
- 12日(月) 体育館で遊ぼう 9時30分～11時  
場所: 市民スポーツセンター
- 14日(水) あひるルーム 9時～11時30分
- 16日(金) ふれあい遊び※午後閉館(清掃・消毒)
- 19日(月) 下田認定こども園で遊ぼう
- 21日(水) うさぎルーム 9時～11時30分
- 23日(金) 誕生会 10時30分～
- 26日(月) 発育測定・育児相談 9時～11時
- 27日(火)・28日(水) 閉館(大掃除)
- 29日(木)～1/3(火) 年末年始休館

※予定は変更になる場合があります。

詳細は子育て支援センターまでお問い合わせください。



起震車体験



誕生日会

秋の深まりを感じ、耳を澄ませば、秋の虫たちの大合唱が聞こえてきます。一年の中でも過ごしやすいこの時期、お散歩をしたり秋の自然に触れながら遊ぶのも楽しいですね。また、お子さんと一緒に絵本を見たり、本に触れる時間をつくってみてはいかがでしょうか。支援センターにも、絵本コーナーを設けています。また、小さなお友達も増えました。遊びにきてくださいね。



ベビリーリミック



めだかルーム

## こんにちは、市長です

「バリアフリーを考える」

「橋のない川」という住井すゑの小説がある。私が学生の頃、パイト先(代行運転)のおやじさんが休憩時間に、松木君は土木工学科なのか、それなら「橋のない川」という小説を読んでみて。土木工学と直接関係しないけどねと言われ、なんか変わった薦め方だなあとつぶかりながら本屋で買って読んだ。

大きな衝撃だった。小説の舞台は明治期の奈良の田舎である。貧困や部落差別といった旧体質の地方の暗い生活を底流に描きつつ、主人公の孝二(小学生)の心の美しさがキラキラ光るシーンもたくさんあって私は相当のめり込んだ。それほど魅力的な作品だった。

物語では、孝二たちの住む地区が川の向こうの「部落」として嫌悪されていてその子どもたちも差別されている。孝二たちは毎朝橋を渡って小学校に通うのだが、物理的に橋があっても人々の心に障壁があるため、橋がないと

そのタイトルに表現されているのだった(と思う)。

土木工学の授業に、橋梁工学というのがあり、その試験の答案用紙にかの小説を引用して「橋とは何か」みたいな小論文を私は書いた。橋は川などで分断されている両側をつなぐモノだが、心をつなぐことがもっと大切で、橋がある社会をつくるべきだという自分なりの考えを(試験問題を無視して)書いたのだ。

橋梁工学の堀井先生は、陽気でお酒好きで、学生たちから愛される先生だった。私の雑文に対して、お面白い奴だな、今度うちに遊びに来いと声をかけてくださった。洗足池あたりだったと思う。ご自宅を訪ねおいしいお酒とともにいろんな話をしてくれてとても楽しかったし、その上私はその教科の単位を取得できたのであった。ずいぶん牧歌的な時代だったと思う。さて、今回のお話はバリアフリーについてである(続きは次回号に)。

